堺市立 東浅香山 こども園

教育•保育理念

・自分も友だちも大切にする心の育成・学びの芽の育成・自分の可能性や能力の発揮

園の重点項目

みたい しりたい やってみたい みんなが育ちあう東浅香山こども園

令和5<u>年度重点内容</u>

- ・主体性と自尊感情を育む。
- しなやかな心と体づくり
- ・小学校と連携し、学びと育ちをつなげる。
- ・地域とのつながりを深める。

| 重点目標 | 重点目標に向けた具体策 | 評 価 項 目 | | 自己評価 | | こども園関係者評価 |
|---|---------------------------------------|---|---|--|----------------|--|
| 主体性と自尊感情を | ひとりひとりの子どもの心に寄り添い、情緒の安定を図り、自尊感情を育てる。 | 大人との関わりで愛着関係を築くことを土台に園児との関わりを育ててきているか。 ・友だちとあそぶ楽しさをたくさん経験し、良いところを見つけることができているか。 ・自分の思いをだし、相手の思いもきいて友だちの中で認め合うことができているか。 | Α | 全ての年齢において、子どもとの信頼関係を築くことで、安心して過ごせる環境・関係を作り情緒の安定を図ることができました。安心できる環境の中で心の動きを伝えたくなるような活動を経験し積み重ねてき | | 今年度初めて、こども園評価の前段階として、2月10日に評価委員4名(自治連合会会長、主任児童委員、民生委員、東浅香山小学校校長)に来園いただきました。園施設の見学と、各年齢のフォトニュース |
| | 活動やあそびをしていくことができる数 | ・主体的に活動できる教育・保育を展開し、園児ひとりがひとりが「みたい」「しりたい」「やってみたい」と心を動かして生活や遊びができているか。教育・保育の過程を保護者に伝える工夫をし。保護者と連携して園児の育ちにつなげることができているか。 | Α | たことで、様々な関係性の中で伝え合う力が育って きました。 幼児クラスは、年齢やクラス状況に合わ せて話し合う経験をつくることで、自分とは違う考え や思いに気付けるようにしてきました。 友だちと関わ | $\overline{/}$ | を見ていただき、園の教育保育の様子をお伝えさせていただきました。校長先生からは、東浅香山こども園の卒園児は人との関係がしっかりと築けてい |
| | | ・同年齢や異年齢の友だちと助け合い、力を合わせることができる仲間づくりができているか。 ・友だちが認めてくれることで安定し、意欲をもって活動に取り組めるクラスづくりの中でひとりひとりの子どもが自尊感情をもち、友だちとともに育つことができているか。 | Α | ることで、自分以外の他者にも目が向き、様々な感情を経験することを通して、心の成長が自尊感情の 芽生えにつながってきています。 | | て、挨拶がしっかりとできていて感心しています、と お褒め頂きました。 他の委員の方からも、丁寧に教育保育をしている様 子がよくわかります、とお話しいただきました。 |
| 体づくり | 心の健康と体力の向上を図り、しな やかな心と身体を育てる。 | ・安全に配慮し、体を動かして遊びたくなるような環境を作り、友だちと一緒に遊ぶ楽しい活動を、育ちのつながりを見通して、計画的に継続し、園児が主体的に取り組めるようにすることで、しなやかな心と体を育てることができているか。 | Α | 年間を通して、日々の活動の中に運動を取り入れ心身の健康な発達を促してきました。年齢や発達状況に合わせ、継続的に取り組むことで乳児は運動機能の獲得を中心に幼児は、身体を動かす楽しさが感じ | / | 次年度より、本来のこども園評価を実施していただく 予定となっております。 |
| | 健康で安全に生活することができる ように安全教育をし、環境を整える。 | ・ヒヤリハットを見つける取り組みを重ね、過去の事故事例から学んで情報共有をし、 安全教育に取り組むことで、大きな事故を防ぐことができているか。 ・園児が危険に気づき、ブレーキをかけたり危険を避ける力を身につけているか。 | Α | られることを目的に活動し、体力の向上を図ることができました。安全に過ごすことができるように、様々な事故事例を迅速に共有し、危機管理意識の向上に努めてきました。 | | |
| 接続する | | ・0歳から大人との愛着関係を育てることを土台に、就学までの6年間を見通して、「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を意識しながら、各年齢の生活やあそびの場面で、園児の行動や言葉の中に学びの芽が見つけられるか。 | Α | 園児の気付きを大切にしてきました。表情や言葉を できるだけ見逃さないよう丁寧に関わり、共に驚いた り考えたりすることで、好奇心・探求心の芽生えや広 | / | |
| | 園の育ちと小学校の学びがつながる ようにしていく。 | ・小学校の児童との交流・ふれあいの機会を持てているか。・発達過程に応じ、個人差に配慮しながら発達を保障し、園の育ちと学校の学びをつないでいるか。 | В | がりに繋がってきました。小学校児童との交流を計画的に実施できなかったことは、次年度以降の課題です。 | | |
| でながりを でながりを | 地域とともに地域の中で育つ。 | ・地域とかかわる小さなきっかけも大事にしてつながりを深められているか。 ・地域の行事に、園児と職員が参加し、地域との交流を持つことができたか。 | В | 園庭開放や育児講座、わくわく広場など地域活動が 再開され、地域の子育て中の家庭とのつながりは築 けてきました。園外に散歩に行くこともできるようにな | | |
| | 子育て支援の拠点としてつながりを 深める。 | ・地域親子や家庭的保育室などに遊び場所の提供をし、交流を図ることができているか。 ・地域に向けた子育て支援事業の内容でつながりを深めることができているか。 | В | り、公園や道中で地域の方々と関わる機会が持てる ようになり、今後も継続してつながりを深めていきた いと思います。 | | |
| をめざす でいき かいきょう かいきょう かいき かいき しゅう いいき しゅう しゅう しゅう かいい かいい かいい かいい かいい かいい かいい かいい かいい かい | 職員がチームとして連携してこども 園運営をする。 | ・教育・保育理念や方針、教育・保育課程や年間計画について職員同士が共通理解し、ねらいを明確に実践を楽しく展開することができているか。 | В | 4年、クラス間の交流をできるだけ控える教育保育を 実践してきて、その間も職員の異動があったため、 職員間で連携をとることが以前よりも難しくなってい | | |
| | | ・園児のこと、教育・保育のことをよく話し合い、各職種とも職員間の連携をよくし、園児へのかかわりに活かずことができているか。 | | ます。子どもを中心にして、議論を重ねられるように 職員の意識を変えていくよう取り組んでいきます。 | | |

今後の取り組むべき課題

| 7 後の状が辿む 「これと | | | | |
|---|--|--|--|--|
| 課題 | 具体的な取組方法 | | | |
| の思いや感じたことを言葉にして伝えることが難しい子どもが増え ていると感じています。 | 乳児期はこどもが安心して過ごせる環境となるよう、保育教諭が子どもと愛着関係を築きます。 幼児期は、豊かな活動を経験する中で子どもが話をする時間、子どもの話を聴く時間を作り、対話する力の土台を養っていきます。 | | | |

園長より

今年度は特に、「異年齢との関わり」を意識して取り組んできました。2,3年実施が難しかった異年齢交流でしたが、今年度は園庭で体操を一緒にしたり、食育集会や保健指導などができ、様々な場面で共に過ごすことができました。このような経験を積み重ねてきたことで、特に4.5歳児は小さい友だちへの関心が高まり、名前を呼んだり、手をつないだり、簡単なお世話をするなど自然に接する姿が多くありました。また、小さな年齢の子どもも大きな年齢に優しく関わってもらい、憧れの気持ちを持ったようです。「子どもは子どもの中で育つ」子ども一士が互いに与える影響の大きさに改めて気付いた一年となりました。次年度もたくさんの人との関わりを通して成長していく子どもたちを支えていきたいと思います。

